

## 7 国際交流

### 進捗状況報告

国連等の国際機関との連携を維持・強化するために、2006年度に6名の特別客員教員を招聘すると共に、2007年度には国際機関職員を1名専任教員として採用した。また、2006年度には3名の海外客員教員を受け入れている。今後も継続して、こうした世界レベルの行政経験者や研究者を客員教員として招聘する予定である。また教員組織においても約4割を外国籍教員が占めており、教員レベルにおける国際的な学术交流も活発に展開されている。さらに学生のレベルにおいても、国連セミナー参加者の約5割、UNITES派遣者の約8割を総合政策学部および総合政策研究科生が占めていることは、学部・研究科における国際交流の充実を特徴づけるものとなっている。なお、総合政策研究科から2006年度に1名がUNITESに派遣された。

### 学内第三者評価

認証評価で指摘されているように「国際交流の推進」という目標は達成されている。さらに、今回の進捗状況報告書の中で記述されているように、認証評価で指摘された問題点もほぼ解決している。

本学の学生交流・教員交流等は、全学的な視点から見れば絶対数が少ないことを否定できない。総合政策研究科が他研究科のモデルとなるべく一層の積極的な施策推進が望まれる。

なお、特別委員から以下の意見があった。

- 教員組織の国際化（本研究科の外国人教員の割合は4割）は着実に進捗しており、目標は達成されてきており開学のモデルになる。
- 国連関係プログラムへの学生参加も他学部、他研究科にくらべて多いが、関連専攻分野からいけばもう少し期待したい。